

Book Review

『新しい市場のつくりかた』

明日のための「余談の多い」経営学

三宅秀道著 (東海大学政治経済学部専任講師)

東洋経済新報社
2100円



1

「寄り道」しながら 経営学の本道を歩く

評者 中沢孝夫
(福井県立大学地域経済研究所所長)

みやけ・ひでみち 1973年生まれ。神戸育ち。早稲田大学商学部卒業。東京大学大学院ものづくり経営研究センター特任研究員などを経て、2010年から現職。専門は製品開発論、中小・ベンチャー企業論。

商品企画のあり方をさまざま事例を中心に探り語った本である。例えばバイクの市場が急速に縮小するなかで、300万円もするハイレーダビットソンの売り上げが、10年以上の間、上昇し続けているグラフがある。著者によると、ハイレーの成功はバイクの性能・機能ではなく「フレームとシートの曲線」「バックミラーのカバーの曲線」「鼓動音」といったことを含めた「ラゲジ

ユアリー」な側面を中心に商品に「再定義」したところにあるという。そして同時に、高速道路でのバイクと乗用車の制限速度の統一や2人乗りの許可、あるいは自動車教習所で大型バイクの免許が取れるようにするなど、日本の規制撤廃のため「アメリカからの外圧を利用」したという。これは周辺環境をも変えるという素晴らしいビジネス手法である。もとより日本のバイクメーカーがす

Book Review

『四〇〇万企業が哭いている』

ドキュメント 検察が会社を踏み潰した日

石塚健司著 (産経新聞記者)

講談社
1575円

2

「悪の構図」に固執する 検察を厳しく指弾

評者 新藤宗幸
(後藤・安田記念東京都市研究所常務理事)

いしづか・けんじ 1961年茨城県生まれ。早稲田大学政経学部卒業後、産経新聞社入社。司法記者クラブキャップ、社会部次長などを経て、多摩支局長。著者に『特捜崩壊』(講談社文庫)。



大阪地検特捜部による村木厚子厚生労働省局長の収賄容疑での検挙・起訴は、検事自らによる証拠の捏造だった。従来から警察・検察による刑事事件の取り調べには、批判が絶えない。だが、検察のエリートと目される特捜検事への社会の目はそれほど厳しくなかった。それは特捜検事が、政治や行政に巣食う「巨悪」をえぐり出してきたという「伝説」に支えられていたからだ。しかし、

村木氏に対する大阪地検特捜部の「犯罪」は、一挙に特捜への信頼を地に落とす。最高検察庁は、特捜組織の改革、取り調べの一部可視化などを導入せざるを得なかった。この本には幾つもの論点があるが、なかでもメインのテーマは、特捜改革後の捜査に変化が表れているかどうかだ。著者が検証の素材として取り上げたのは、本来「ちゃち」な事件だ。

べきことだった。

著者は「商品の価値は商品単独ではなく、社会的文脈によって決定される」と指摘しているが、全く同感である。どのような商品にもそれは言える。

その他いくつもの事例がある。トイレの革命ともいえるウォッシュレット。確かに今ではどんなビジネスホテルだって、あるいはワンルームだって、温水洗浄便座はある。「お尻だって洗ってほしい」と考えたのは画期的だった。単に「痔主」への最良の贈り物という商品ではない。世界的な発明である。

あるいは競泳用ではなく、運動用の水着の開発事例。ガス会社による「暮らし」のデザイン。携帯の付属品……どの事例も技術的に優れているというものではない。どこに「問題」があるのか、という「問題開発」が

優れているのである。

本書を読んでいると、大切なのは発想を変えるというところにある。著者は「知らない人と最後に仲良くなったのはいつですか」と問いかける。いや、「人」に限らない。「自分の視野の外に、新しい新結合が存在する可能性があると思わない人に、何ができるでしょうか」と、問いを重ねる。

本書の半分以上は「余談」である。ティッシュペーパーやサラシラップのルーツ。下町のこと。不倫と贅沢品のこと。ワイングラスの口がなぜずぼまったのか。和食の大戸屋が1階にないことの意味など、全体が「寄り道」をしているような本なのだが、通して読み終えると、経営学の本道を歩いていることが分かる。翻訳からの学ではない、本格的なオリジナルの経営学の書である。

Book Review

銀行を退職し中小企業の経営コンサルタントとなった男が、経営者に粉飾決算を指導して銀行からの融資を引き出し、その一部を懐に入れる詐欺事件を引き起こしたというものだ。これだけならば、東京地検特捜部が独自捜査するような事件ではない。だが、特捜批判として「改革」に焦りを覚えた東京地検特捜部は、「壮大」な事件構図を描いた。つまり、粉飾決算と銀行からの融資が、従来からの信用保証協会による「保証枠」に加えて、東日本大震災への対応策として創設された「保証枠」に裏打ちされており、公金に担保された詐欺であるばかりか、それが業界に蔓延している、というシナリオだ。

意・強制取り調べで被疑者とされたアパレル業経営者とコンサルタントに、強圧的に告白を迫る。一部可視化のためのビデオ撮りなど、全くの形式でしかなく、取り調べの実態を物語るものではない。この本は中小企業と銀行の関係の実態を描き出した点でも秀逸だ。粉飾決算自体は正当化し難い。だが、ほとんどの中小企業が粉飾決算によって融資を引き出している。それによって経営健全化に向かう企業もあれば、倒産する企業もある。だが、大半の経営者は真摯に再生を追求している。銀行もまた実態を知ったうえで融資している。著者が特捜検事を「世間知らず」とするゆえんだが、「正義」とは何かを忘れた官僚検察の支配ほど怖いものはない。検察改革のあり方を社会全体で考えていかねばなるまい。

現代政治学叢書

(全20巻)

☆政治の全貌を描いたシリーズの金字塔、ついに完結！

②ガバナンス 猪口 孝 / 2640円
民主主義の変遷を基礎にした政治的考察と、日本社会を舞台にした経験的考察から、ガバナンスがこれからの政治理解に有効な概念であることを解明する。

⑧イデオロギー 蒲島郁夫・竹中佳彦 / 3100円
イデオロギーの本質と展開を思想的・歴史的に概観しつつ、現代日本の権力を多角的かつ長期的に、国際比較を交えて明快に浮かび上がらせる。

東日本大震災の科学

2060円

佐竹健治・堀 宗朗編
理学・工学から情報学・経済学まで、東京大学の多分野にわたる研究者による最先端の「災害の科学」。将来の巨大地震の対策提言もおこなう。

新たなリスクと社会保障

4410円

井堀利宏・金子能宏・野口晴子編
これまでの社会保障の背後で生じつつある新たなリスクを見すえ、ライフステージの変化に対応した、全世代型の社会保障のあり方を考察する。

ロマン主義の 経済思想

芸術・倫理・歴史

塩野谷祐一

ラスキン、グリーン、シュンペーターの分析をもとに、近代啓蒙主義批判を展開し、成長主義とは異なる経済活動の新しいフロンティアを模索する。5880円

政治学講義 [第2版]

佐々木毅 / 2940円

東京大学出版会

〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東大構内
TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958
http://www.utp.or.jp/ [価格税込]